

# 報道における原子力の扱い方

”社会からの木鐸” と ”社会への木鐸” という

二つの使命をどう果たしていくか

日本原子力学会、SNW第7回シンポジウム

2008年3月4日

新井光雄

# 1. ニュースの構成

発信者(原子力) 仲介者(メディア・記者)

受信者(読者・視聴者)それぞれにある問題点

発信者の問題: 正確・的確な情報提供ができたか

仲介者の問題: 正確・的確の仲介ができたか

受信者の問題: 正確・的確に受信できたか

## 2. まず仲介者としての メディアの問題を考えてみる

特に記者という職業とは何か。簡単には表現者。

特ダネを狙う動物。向こう受けをねらう役者。

それでも「**社会の木鐸**」は  
目指すべき虚構としても目標。

新聞 テレビ 週刊誌などの違い

テレビは映像が全て

### 3. 原子力はその表現の場を

## 与えてくれる最大級の宝庫

なんでも記事になるという宿命的な存在。

目下のところ逃れる道なし。

総理大臣と同様で一挙手一投足が監視下。

外国との違い。

## 4. 原子力報道の複雑さ。

事故 地方部 社会部 科学部  
経済部 外報部 整理部

こうした関係性のなかからニュースとなっていく

事故は地方部 社会部 科学部 (外報部)

エネルギー政策面は経済部

## 5 . 大事な発信・説明

「禍なるかな 原子力技術者」  
受信者との決定的な距離

原子力現場と全く反対側にいる  
仲介者・メディア

例 もんじゅの「事象」発言  
ECCS問題

自然科学 社会科学 人文科学

## 6 . 無明な受信者・社会

難しすぎる原子力

エネルギー教育の重要性  
ある小学校校長の述懐  
大学での授業体験

**結論**  
**シジフォスの神話**